

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	不静定構造力学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/選択科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・「たわみ角法」を用いて簡単な不静定ラーメンの応力算定ができる。(C1) ・ラーメン架構の応力分布にみられる特徴を理解できる。(C1) ・保有水平耐力の算定ができる。(C1) 						
日程と内容	9/18 導入講義 9/25 不静定ラーメンの応力算定-1 10/2 不静定ラーメンの応力算定-2 10/9 不静定ラーメンの応力算定-3 10/16 不静定ラーメンの応力算定-4 10/23 不静定ラーメンの応力算定-5 10/30 不静定ラーメンの応力算定-6 11/13 ラーメン架構の応力分布-1 11/16 ラーメン架構の応力分布-2 11/20 ラーメン架構の応力分布-3 11/27 保有耐力の算定-1 12/4 保有耐力の算定-2 12/11 保有耐力の算定-3 12/18 保有耐力の算定-4 1/15 定期試験 1/22 まとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	0%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%					
	演習	20%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「たわみ角法」を用いて簡単な不静定ラーメンの応力算定ができる。(C1):ほぼ達成できた。 ・ラーメン架構の応力分布にみられる特徴を理解できる。(C1):ほぼ達成できた。 ・保有水平耐力の算定ができる。(C1):ほぼ達成できた。 						
反省点	大半の学生が、構造力学の授業についてこれない。基本を理解している生徒は僅かで、大半の生徒は、解き方だけを覚えようとしている。生徒は、皆、良い成績を取るためだけに勉強しているようで、そのような生徒に対する授業方法を考えていく必要がある。建築コースの学生にとっては選択科目であり、履修生徒が少ない。工学的学問である構造力学への関心を高める必要がある。						
来年度の計画	生徒の反応を見ながら、授業の力点を置くところ(理論か演習か)を検討していきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は7.8点であり、学生の理解力を高めるに至っていない。構造力学への興味を深め、理解力を向上させるよう努力したい。						
履修登録者数	34名	定期試験 受験者数	20名	合格者数	15名	合格率	75%